

水と共に文化を流さん

—われらの希い—

「水と共に文化を流さん」

愛知用水を作った1人、知多半島の農家・久野庄太郎さんの言葉です。水不足に苦しむ農村に水を引くことができる。そんな願いが込められています。遙か100km以上先の木曾川から水を引こうと久野庄太郎さんと高校教師であった浜島辰雄さんは人生を賭け用水建設に挑みました。浜島さんが実地測量と地図の等高線を頼りに幹線水路を描いた幅1.8m、長さ3.6mの緻密な地形図。それを担いで農村を説いて回り、時に浪曲師を呼び荒地の開墾に尽力した明治用水の先駆者・都築弥厚の苦心談を口演し農家を奮い立たせ、遂には当時の首相吉田茂に直接陳情し協力を約束してもらいました。農民と教師から始まったこの構想は国の総合開発事業として進められることとなります。



一方で愛知用水の水瓶となるダム建設に対し水源地では反対運動が起こりました。

「…とにかく絶対反対である。祖先以来永い間定着して来た土地と家、父祖の墓地を湖底に沈め、故郷を追われようとしているのであるか。ふるさとのない人生がいかに寂寞たるものであるか。山高く、水清らかなこの土地は、我々の愛する故郷である。故郷を愛することは人間本来の姿である。ダム建設に反対するのは最早理論ではない。我々の感情である。心の底から突き上げてくる情の世界である。…」
(広報「王滝」昭和29年44号・村民に懇う・村長細尾征雄から引用)

しかし反対の陳情を続けるも、国策となった愛知用水事業を止めることは出来ず補償と引き換えに長野県王滝村の4集落と三岳村(現木曾町)の2集落の土地はダム建設のために水没しました。両村の水没犠牲者は1003人、うち700人余りが村外移住をしています。

構想から13年後の昭和36年多くの苦難を乗り越え愛知用水と牧尾ダムは完成します。着工からわずか4年という早さでこの大規模な事業は完工しました。急ぐ工事は非情にも多くの犠牲者を出し56名の方が亡くなりました。殉職者の中にはダムに関する知識や技術を出し惜しみなく日本人技術者に伝えたアメリカ人技術者もいます。

61年後の現在も水は長野県の山奥から知多半島の先端の島々までの流域を潤し、農業・工業・生活用水として沢山の人の生活を支えています。

ダムは山々に囲まれ静かに水を湛え、波ひとつない水面は心を落ち着かせてくれます。水路は暗渠を通り見えたり見えなかったり、障害物がある度にグニャッと曲がり紆余曲折まるで人の血管のようにゆっくりと水が流れています。

多くの物語を含んだこの水で繋がる流域は現代の私たちにとってどんな存在なのでしょう?またどんな物語をこれから作る事ができるのでしょうか? 私たちは常に問われています。

展示イベント

今回のワークショップで制作された鯛の作品は下記の芸術祭で展示されます。



木曾ペインティングスVol.6 『僕らの美術室』

会期:霜降り2022.10.23(日)▶立冬11.7(水)
展示会場:長野県木曾郡王滝村・木曾町・木祖村ほか
鯛神輿の展示場所:御嶽神社里宮参集殿(里宮駐車場横、休憩所)

※10月22日鯛神輿を神社まで担いで運ぶイベントがあります。
※展示に関する詳細は木曾ペインティングスホームページをご覧ください。

木曾ペインティングスとは?

「宿場町と旅人とアートの至福な関係」を旗印に、江戸と京都の中間地点である木曾の宿場町を舞台に繰り広げるアートプロジェクトとして2017年6月に第一回の芸術祭が行われ、以後毎年開催されています。また芸術祭以外にも地域の歴史や景観を守りながら、地域の資源や人材を活かしたプロジェクトを進めています。
地域の生活の中からアートを文化として育てていくことが私たちの使命です。アートを介して宿場町が祝場町となる、そんな場づくりに努めていきます。



▲ホームページ

僕らのルネッサンス事務局



〒397-0201 長野県木曾郡王滝村3016
MAIL tao0616sol@icloud.com
TEL 080-6765-2669

▲ facebook

イベントやワークショップにつきましては、随時変更がある可能性があるため、SNSにてお知らせいたします。

<主催>
僕らのルネッサンス実行委員会
<後援>
王滝村・南知多町
独立行政法人水資源機構 愛知用水総合管理所
<協力>
愛知池友の会

長野県地域発元気づくり支援金事業

流域で繋がったらめでタイね



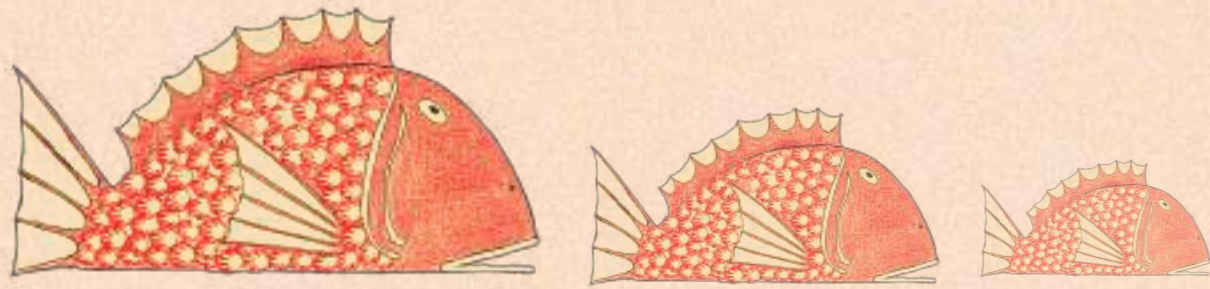
鯛神輿遡上&ワークショップ

9.23 (金)

9.25 (日)

1948年、知多半島の農家と高校教師二人の出会いから始まった国の総合開発事業。王滝村と知多半島先端の島々まで流域を作り、農業・工業・生活用水を支えた愛知用水とその水瓶・牧尾ダムは昭和36年に通水しました。「水のゆくてに幸多かれ。」という言葉から61年後の2022年。海に溢れた幸は大きな鯛となって水の物語を辿り源流を目指します。めでタイ未来を夢見ながら。

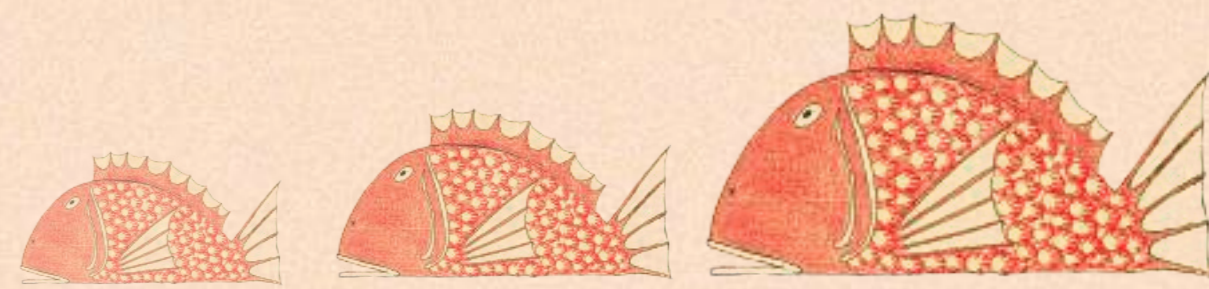
流域アートプロジェクト feat.豊浜鯛祭り 2022



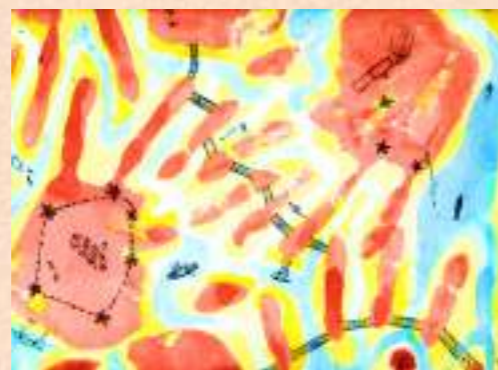
【流域アートプロジェクト feat.豊浜鯛祭りとは?】

毎年夏、知多半島先端の町・南知多町豊浜地区で天下の奇祭と呼ばれる「豊浜鯛祭り」が行われます。その年の豊漁と海の安全を祈り巨大な鯛の山車を担ぎ練り歩きます。現在は鯛が定着したお祭りですが昔は様々な動物の山車が作られていたそうで始まりはハツカネズミのハリボテだったそうです。毎年その場の思いつきのように作る動物が決められていたのでこの山車のことを「おもいつき」と人は呼んでいました。

本プロジェクトも「おもいつき」の様に突拍子もなく豊浜の巨大な鯛が南知多町から愛知用水の流域を巡り愛知用水や牧尾ダムなどの歴史に思いを馳せながら王滝村まで遡上するというものです。海から山へ鯛と一緒に広大な流域を感じましょう。



ワークショップ イベント



木曽を活動の拠点とするアーティストで王滝村地域おこし協力隊の近藤太郎と一緒に61年前に完成した牧尾ダムと愛知用水の水の物語を描いた絵巻を鑑賞し、南知多町から出発した鯛の神輿の体に手形を付けるWS(ワークショップ)を行います。付けたたくさんの人の手形の隙間に川を描き手形の流域を描きます。見学のみも可能ですのでお気軽にお越しください。

木曽で密かに人気な画家・音楽ユニット「ドキドキシティボーイズ」も山からやってくる!

〈タイの遡上・ワークショップスケジュール〉

出発

9.23(金)

南知多町・豊浜モーターズ (愛知県知多郡南知多町豊浜西之平井34)

● 出発式10:00~11:00

経由地1

9.23(金)

佐布里緑と花のふれあい公園 (愛知県知多市佐布里台3丁目101)

● ワークショップ 14:00~16:30

経由地2

9.24(土)

愛知池バタフライガーデン (愛知県日進市米野木町南山)

● ワークショップ 13:00~15:30

※愛知池バタフライガーデンは駐車場がありません。徒歩でお願いいたします。(米野木駅から徒歩15分)

経由地3

9.25(日)

兼山取水口 (水資源機構 愛知用水総合管理所 上流管理所)

● 鯛神輿の公開 9:00~10:00

到着

9.25(日)

牧尾ダム・管理所前公園 (長野県木曾郡木曾町三岳7696番地の1)

● 到着式

● ワークショップ14:00~16:00

MAP



※全日参加費無料・予約不要
※当日は汚れても良い服装でお越しください。